

参加した コース	マイ探求コース			訪問国	ネパール
学校名	浜松開誠館高等学校	氏名	白井一志	学年	2

## 1. 留学概要

国▶ネパール 期間▶2週間（2024. 7. 27～8. 12） 活動▶建築ボランティア テーマ▶ネパールの子供も達が安心して勉強できる場を作る 探求▶学校建設を通じ、施設の耐震状況や震災時における人々の行動や備えについて考察する。また世界遺産（ダルバール広場）の復興状況を把握する アンバサダー活動▶学校で生徒にかかるたを体験して貰い日本の伝統的な遊びを伝える

## 2. 研究テーマ・背景

### 研究テーマ

建築作業を通じて、一連の学校建設を学ぶ。学校建設を通じ復興支援を学び、施設の耐震状況や震災時における人々の行動や備えについて考察する

### 研究の背景

2015年にネパール大地震災害があり、日本でも阪神淡路大震災や東日本大震災、直近では能登半島大地震が起き、大きな被害を受けている。このことから私が住んでいる日本の地震についてどのようなイメージを持っているのか、どう考えているのか、ネパール大地震に対する考え等に疑問を抱き、耐震に対する意識調査を行いたいと考えたから

## 3. 研究の目的

- 1、耐震意識や震災の復興について
- 2、世界遺産への被害状況について
- 3、日本の地震について

## 4. 活動

被災した現地の学校で2週間建築ボランティアに参加

〈主な内容〉

・セメント作り・トイレの設置・ドアの設置・レンガを積み上げ壁作り・床慣らし・柱づくり・整地・鉄筋コンクリートを作るために針金の骨組みを組む



## 5. 調査方法

### アンケートヒアリング

場所▶建築活動する学校・ホテル 対象▶①現地のスタッフ（5人） ②現地住民（3人）

③各国からのボランティア（4人）フランス人：2人、イタリア・アメリカ各1人 ④日本からのボランティア（7人） 時間▶昼、夕方 方法▶①口頭で質問 ②書面に記入 方法▶主な調査内容(1)日本の訪問有無 (2)静岡県への知名度 (3)耐震意識・対策 (4)震災の復興状況 (5)世界遺産の被害について (6)日本の地震の認知度 (7)地震の脅威は何か

## 6. 調査結果

(1)日本訪問の有無：無 100%

(2)静岡県の知名度：約 17%→静岡県のイメージ：お茶 100%

(3)2015 年大震災後の耐震意識の変化：100%→要因：地域での活動 100%

(4)震災の復興状況：進歩 87%、停滞 13%

(5)・世界遺産の被害状況についての考え：甚大 63%、甚大ではない 37% ・世界遺産への各国の支援：充分 75%、不充分 25%

(6)・日本の地震の認知度：100% ・津波の認知度：100%

(7)地震の一番の脅威：建物倒壊 60%、火災 21%、液状化 18%、ライフライン寸断 21%

## 7. 考察と今後の活動

### 1 考察

- ・ 2015 年のネパール大地震後の耐震意識は地域の取り組みにより向上している
- ・ 世界遺産の被害について、甚大が過半数を超え、各国から支援も充分が過半数を超えたが、実際に被災して約 10 年がたった現場を視察すると復興はあまり進んでいないことが分かり、現地の人々の認識と現場の状況には違いがあるのが把握できた。

### 2. 日本の地震について（建築学会参加、伝建地区への視察）

建築学会主催の災害重要拠点病院の最新の免振装置を見学（新半田市民病院）、

課題等を抱えている花沢地区、足助地区、有松地区、関宿地区等を視察

